腹脹大青筋をゆかしゆしい発熱しきれ無く
元気日くるかるへ終に死いたる是病大人の骨
蒸かれしこれ小児つ神ま球ときるまとまい
るのとかはく食せのいとやく飢まるまと食物ま
飽し先脾胃を薬し熱伏せしゆしい吐乳すしば
ゆしい泄瀉すしゆしい痙攣ならるあるしい味噌や
まに頭痛食をして嫌とかしゆしい盗汗出く
やしかくこのこの久しく食るる時ハ脾胃虚損
し元気脆し津液枯竭つひま病疾とかはとう

とと脾病をう古人と大人と労しかし小児と病しか
すしいて其病深かしぬ門とやく上手の医者ま
あるて癒治とう行へし

蛔虫

小児元気いまと貴ならば脾胃虚弱なるこのんて
耳ときあと食ハ脾胃を滞し湿熱を生し腹中ゆや
しもとまし種ゆ病と年ゆ蛔虫かり其候
四肢羸瘦腹大き妹の形のとくむしハ生長成
とこのみ食いゆしい食物とかとこと事をふす

吐乳

吐乳の病ようも大小ありて小児ばかりの病なれども
ハ長ずるの年一小児ばかりして四五月より間歇ありて
うち何とかく面色青白く大便結結して医
あしハ青筋ありて黄の筋ばかりつゆしるもとく
ひハ茶褐色ありて粘液のごときものを吐
ばかりく胃ようとして発熱すれハ吐逆
胃虫ようとして背ハ抜胸とはてこうかしと
あひハ今ようて如意つくるもの中ようてもとほう
すれハあひハ鍼ようて乳とのこと能ようを如

ひハ食ようて後生吐と吐眼裏と時ようこと
藤治ようハ膵の中間ようかけくかうて元気日
ようて脾のようつひて元ようかうてようこと
みようて医者ようもて穀ようの筋ハ絡しひと
ようこと病のようこうようてハ元気虚
て中ようとはようハ用ようかしかし空しく
ようとつうハて元と見ようのうハ元気虚
ゆへしひ
吐乳

す乳のとる時はいけて元来塞と懸癖ある者の症候なり内ふかく物つまりて癖をなしゆう乳はとるとも又は乳飲るのち寒熱ほとほと物婦苦悩ゆや殊に乳つまりはいと強き病とまして乳を吐つて癖をなしかつ日中に痛はなはだしくなりあるいは乾呕あるいは吐つてもなくあるいは呕逆つよく苦しみて吐ものなしあるいは一日の間数度あるいは一日あるいは二三日あるいは一二日とあるいは

はあるいは数日あるいは数日くるしみ癖をなしかつ呕逆の症あるいは吐ものなしあるいは一日の間数度あるいは一日あるいは二三日とあ

うんとす。瘡のさうんゆまいうて傷ふかわると医者とはむしらの傷ふいりてはをでを治をる法をし有まうせし瘡傷いうるををしゆくべをを上まの医者まらふてゆまあるべしうんをらの瘡食をるとのをるねしうの瘡の深ふうをく小児をしのて生れる胎毒とだをうるとゆるをせしいまこゑ薬のつをる用をるをつく乳と飲しう胎毒腸胃のかゑ潰医をて用を攻をうるの久しく実腹の傷をいうう温熱の薬を慎し潰くまを瘡と者ををれ八頭瘡をを八頭項等に種物ををしうる

小児を八大の瘡ををうする者かーまを瘡と者をを海をと其児元来薄弱して十合まをうしう採わをひ八をを食んを日は砂して傳来薬来を日用い八攻すーりの時八巻するかりこれ胎毒の中をの事ををうををーををくこのるとを巻へて胎毒治をを小児かをく八神まの時かりすれ治をすをを上手の医者まを見をてををくく手高とすべ上友乳とのをーをて傷八をの毒をうかをくかほく用をて伏ーて日以経てをの瘡ーかを世の小児一三歳の間

おのづから病て死する者十のうち八九なり八九は此病なり此病
ときどき一二日に一度吐乳かとこのかた時行の乳ふ
感ト発熱ハ[illegible]てもくわりまて飲食停滞して吐
吹[illegible]てもくわり溢乳して飲ることあるもあるいはこれ
なるの吐乳ハ一二て軍ときどきこれひとつハ[illegible]
のしハ脾胃虚弱て元気損ときのあれハ驚風を発する
事なり泄瀉ときどきこの症ともハ[illegible]
[illegible]ときどきハ[illegible]胎毒吐乳
泄瀉

小児ハ脾胃嫩弱なるあれハ腹下りやすし[illegible]
[illegible]傷食泄瀉なるの餘ハ[illegible]
[illegible]吐乳と一体にて下利ハ[illegible]
元気虚弱ハ痛[illegible]和と慢驚風なるおそれ
又暑月の泄瀉ハ[illegible]
腹下りて或青ときあり白きあり
[illegible]の陽のときハ[illegible]
[illegible]驚搐を発し死ふたりあり高
[illegible]日一日の所を変とかす[illegible]

とうてもやまずしかるに早く医者をえんとて張仁をも
命じ[illegible]すべし[illegible]
馬脾風
小児の[illegible]馬脾風といふ[illegible]この病しるに飛喘つて
[illegible]あれども[illegible]嗜[illegible]しくとの響[illegible]
面[illegible]のごとくなる[illegible]大便白[illegible]
[illegible]乳を飲ずあるいは大便[illegible]
[illegible]しく俄に座[illegible]して死ぬ[illegible]この病[illegible]
[illegible]症[illegible]死[illegible]と及しかれども[illegible]世の人[illegible]

病の[illegible]ごとくなるものは心ばへて死[illegible]
べし[illegible]
[illegible]
脳毒瘡
小児脳[illegible]の毒[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

面色後性おそろしく息ぶかしく呼吸せまり衝心して死あ
るべしこれ毒家門攻して吐乳とかるるなり大こぶ
瘤の如しいつく膿汁かりくかるるしるしとかるるなり
かうんの津流ときつて舞とかるるものなり医者これ
おそれてあるべし

丹毒

小児丹毒とは頭面胸背のひの手足まわりこれ
ひかりて腫とかるるなり熱やくるとかるるなり
とんぬ毒とかるるなり人かくるとかるるなり

先ら於ゆえ毒とかるるなり毒は瘡のまさしかるべく
医者ものして癒はすべしはれし脱とせ人又
隠蔵とせ人とかるるなり死とかるるなり

走馬舞

小児走馬舞とは八ばの舞と瘡とせし血とせ中
臭く遠眼胴八面黒くかるる面板あ鏡と穴と
せして死まるとかるるなり舞とかるるなり
あしばくとかるる医者とかるるなり
かるて磯とかるるべしす

龜背龜背

小児龜背龜背とは二つの病ひ龜背龜の背の如く
膝ふくれ骨弱くして龜の背の如くなるを龜背
龜背とは脳ふくれ骨弱くして龜の背の如くなる
この病ひは胎毒の門骨ふくれものなりとも
さしいたるべからず医者に治してもあしく
かくの如く痛みなくつひに癒人となるべし

解顱

小児の顱門のひらきあるべきひらきたる皮の下に

こゝの骨とて見はなと解顱なるは腎衰の不足なり
なり東洋屋弱の小児なり其病ひの出門まで
まてしばすべしやうすれば助るものあり

預病のこと

小児の病ひすべて脾胃のこと腎腹とも灸
灸すべし無病のときも灸して陽気を
助くべしわけて月ごとに灸すべしひは
ものくに灸してかゝるべきなり小
児肩の間に青き筋とかくしるしあるは病ひ

ずるゆゑ小児大便青く菜の葉ばすりる如きこと
ありて積通しがたく脾胃の病なり如し
小児唇の色常に紅なるは病なし唇かろく白き
なり唇白きことあるは虚症なり唇黒きことあるは
熱症なり内ありと云ふべし小児の舌ばえんじ
色なく又は白く又は黒く又は黄ばみ又は赤く
なる病ありと云ふべし舌上の苔つもりまさと云ふは
驚癇の病まさしすと云ふべし
小児ものをうとは呵欠する病なりと云ふべし

小児ものをうと舌はそうしつくりつくりまさ白くなる
を再舌しるしるは脾胃の熱なりと云ふべし
小児大小便赤くして通ずるは病なり大便赤く
なりて通じるは病なりと云ふべし
小児顖門落ちいりて言くなりまは低くなりて
くぼみくるは病なりと云ふべし
右ようせ事をつくるにおかすは世俗の病
なりと云ふべし能くして上まの医者よりお療してかりの
ものにかてすべきなり大病なりて後に成るものもあれば

[illegible]

疱瘡

[illegible]

[illegible]

[illegible]

起脹三日ふとりはじめる

貫膿三日ふをはじめる

收靨三日ふをかさぶる

[illegible]

[illegible]

疱瘡の序熱は熱おもく傷寒時疫とまぎらわしく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ありかくのごとくすこしもあつく驚搖をいたしもかのうす癒すべし一世の人疱瘡に小児のやくをなして庫裏の門にまとのうしろにまたとやうに貼いろよのかほくあり蛭と疱瘡にこれをそこし古の人とまずすしてとうふやきかのかほをすくかをのこと一度毒のほうこほうをうすして手のけ一分貫膿の終りしくハ膿のくしをかきて四症と癒しもとに貼てかとかき医者のしるいるものかけし疱瘡の敷と

かりうまのあハ手かうんとありてはとほすべきのほうこかけく死をいたのくこうろほてまあかはほとのうりうのとうはくくこうろほてまあかはほとのうハかはけるかるハ食すまあ乳のまをすハ起張のかうう腹脹ますこうもかすの心うみことかしハかりすこかく上まの医者をおかしてまあうこてゆうをすべしこの四症と癒して後ハうゆうをすべしこの四症と癒して後貫膿のこうかはうハ痒とのものかうかすの抵抗

らすべしとて疱瘡をすり殺して魂をとらんと
毒口を吸ひて死せしなり疱瘡中の看病
こゝろもつもつもむべし抵抗の勝外にて
その後いくばくもなくして看病
なり
凡小児の諸病不言の病をもつて悪あるとみ
をいつすを得ざるいつの危篤病をも熟し
時を配るまたハ父母いづれもすべてかの子孫
死をおそれすかほしのつをもとむべくかの志

かしこうてうをとりて世俗を通ずるやうに
かほをとかをつけをもかり讀んへ文を
いやしとあのうへのつとかをいハ見ゆし
ふ一

文政三年庚辰之春岡子先所著小兒戒草刊成秦幼之法幹然備矣其文平易其言丁寧以告諭者夫婦之愚而以喻知也讀者心誠求之調攝救療無過不及之差終使未可夭殤而夭殤未皆至於羞羞劇隕則其功可謂大矣子先名鼓号勁齋有

著作若干从此此書折亦續錄耳
嗣刻幼沖窺擬二卷活痘活法
一卷並而傳於世豈不盛乎既
春上澣小川汶蓮跋

晗齋源春圖書

四春書